

## 【中国からの日本ウォッチング—人民日報の日本関連記事から】

2006年10月9日の人民日報一面に、胡錦濤国家主席と安部首相、温家宝首相と安部首相の会見記事が写真つきで大きく報道されました。その中で、胡錦濤は「代々の中日友好は両国人民の共通の願いだ」、温家宝首相も「中日友好は大勢の赴くところ、人心の向かうところだ」と述べ、関係改善への強い意欲を示しました。

今回の安部首相の訪中は、ちょうど中国共産党16期6中全会の開催と重なりましたが、安部首相という人の運の良さにも感嘆させられました。

中国は来年(2007年)に5年に一度の党大会を開催します。そこで第2期胡錦濤政権がスタートするわけですが、それと同時に、2012年の党大会で年齢制限に引っかかる胡錦濤主席は次期指導者にバトンタッチをしなければなりません。それにはこの党大会で、その後継者を政治局常務委員に選出しておかなければなりません。

現在、その本命と目されているのが遼寧省にいる李克強氏。亡き胡耀邦氏、そして胡錦濤主席に連なる中国共産主義青年団人脈の正統な後継者でもあります。こういった来年の人事を巡って様々な鞘当があったわけですが、前主席の江沢民氏とそれに連なる上海閥がこの6月ではっきり退潮の気配を見せました。江氏側近や上海閥のスキャンダルの摘発が相次ぎ、独占禁止法草案にも、抵抗勢力の官商結託を取り締まる内容が盛り込まれました。

7月以降、中国側から日中関係改善に関するシグナルが次々と送られたことは、第一期胡錦濤政権が江沢民氏の強い影響力の下で両手両足を縛られていた窮屈からようやく開放され、そのスローガンたる「調和の取れた社会」への本格的な歩みを始めたことの一つの証左とも言えましょう。安部新首相の誕生はまさに絶妙なタイミングで実現したわけで、これは日中双方にとってまことに幸運だったと言えます。